

森林防疫ニュース

No. 9. 林野庁 森林害虫防除室 1952. 12. 1

われわれの熱と誠意が酬いられ、栗玉蜂防除の国庫予算は遂に1億円となった。誠に同慶の至である。松喰虫に次ぐ大規模な防除だ。責任は重大である。森林病虫害防除の国庫予算の膨脹は大方奇異の念を以つて迎えられている。これは森林衛生思想の不徹底の為で、残念なことである。この予算は林産物の増産と直結し、又零細所有型態の森林では病虫害の防除は自己の為というより、他人の為、国家の為のものであることを是非知つてもらわねばならない。

造 林 と 防 疫

東京大学農学部教授 中村賢太郎

わが国では森林の被害としては、火災・風水害・雪の害などが重大であつて、生物の害は軽く見られていた。ところがスギ・ヒノキ・アカマツなどの一斉造林がさかになると、虫害や病害がふえることは当然である。自然法則を尊重すると称して、天然更新や択伐作業がもてはやされ、抵抗性の強い異令不斉の混交林が要望されたことがある。しかしながら健全な森林をたてることは、造林技術がむずかしいばかりでなく、経済上の損失があまりにおおきい。したがつて今後の造林は経済上もつとも有利である樹種をえらんで、大面積にわたる同令単純林をたてる必要があると考へる。

そうすると各種の被害対策、とくに生物の害に対する防疫をどうするかという問題がおこる。なおわれわれが地方へ出張するとき、質問をうけるのは造林よりも防疫に関することがおおく、病虫害はなまなましい重大問題である。マツ類の大造林を推奨している筆者は、いたるところでマツクイムシの害をどうしますかと反問される。またネズミの害を防がなければ、北海道ではカラマツは造林できない。医学では治療よりは予防衛生が重要であるというが、林業では抵抗性の強い森林をつくることに努力するよりは、病虫害の早期発見と徹底的駆除に全力をそそぐべきものと考えらる。

木材を増産するには造林保育が重要であるが、防疫の力を借りなければその目的は達せられない。森林害虫防除室が研究普及課の一隅におしこめられているようでは、林業の先進国であるとはいえない。林木育種と森林土壌と病虫害とは造林関係の研究事項としてもつとも重要であるが、林野庁として特別の活動を必要とするのは病虫害の予防駆除であるゆえ、防疫事業の一大拡充を要望するとともに、森林防疫=ニュースの健全な発展を祈る。

情 報

◇ 発 生 速 報 病 害

○ カラマツの落葉病

北海道 釧路国阿寒郡鶴居村の10~18年生のカラマツの人工造林地に発生を6月上旬頃発見した。被害面積40町歩(激害10町歩,中害10町歩,微害20町歩),被害本数10万本。(道 10.15)

○ 支那アブラギリの病害

島根 能義郡母里村大字東母里の村有20年生の油桐林に発生,本病は7月頃葉面,8月初め頃果実に病斑を発見した。被害面積約1反歩,被害本数30本,病斑甚しきものは落下す。(県 10.20.)

○ ツバキの餅病

東京 三宅島坪田村に発生したことは既報したが、その後の調査によると、三宅村にも発生していた。被害面積、45町歩、被害本数24,500本、この被害によつて、椿油の生産が減少したばかりではなく、防風林の機能をも低下させている。(都 10.19)

○ ツバキの炭疽病

東京 利島の利島村のツバキに発生、被害面積150町歩(激害100町歩,中害30町歩,微害20町歩),被害本数72,000本。本病は全島に蔓延し、特に山の中腹以上霧の多い部分及び密植した区域に多発す。本病によつてツバキの生育が害され、結実をなくし、椿油の減産、防風林の機能を低下させている。(都 10.19)

虫 害

○ マツオオアブラムシ

島根 仁多郡布勢村大字佐白の植栽後2ヶ年のアカマツ苗木全部に被害発生を10月18日発見被害区域面積5町歩、苗木は枯死寸前の状態になつている。(県 10.24)

○ カイガラムシの一種

東京 北多摩郡下の小金井、国分寺、府中の各町のクリの下枝の新芽を喰害、被害面積7反歩、被害本数150本、被害材積30石、所有者は機械油乳剤を撒布駆除を行つた。(都 10.19)

○ マツノオオマガラメイガ

宮崎 宮崎市一ツ葉浜海岸保安林の4~5年生のクロマツに発生を8月11日発見、被害面積25町4反9畝(激害4町歩、中害16町3畝、微害地5町4反6畝)。殆んど全枝の梢頭部が食害せられていた。9月下旬羽化。(県 伊藤武夫 11.1)

○ クヌギカレハ

東京 南多摩郡元八王寺村上巻分のクヌギ、ナラの葉を5~6月頃食害、被害面積5町歩、被害本数8,500本、樹勢衰退。(都 10.19)

○ マツカレハ

愛知 宝飯、渥美両郡、豊橋、豊川両市の県南部の温暖地方に発生が顕著に認められて来た。従来本県に於ては、県の中北部に於て大被害があつたが、今夏からやや南部へ移動の傾向が認められていたものである。(県 10.23.)

徳島 那賀郡坂野町の30~70年生のクロマツに発生を10月6日発見、この被害は8月下旬頃から梢頭部の若葉が食害され初め、現在枯死木数本を認めるようになった。(那賀地事・小坂正一 10.14)

○ クスサン

東京 西多摩郡福生町、東秋留、西秋留、多西平井、増戸の各村、北多摩郡下一町のクリに発生を5月発見、被害面積6町8反6畝、中害11町9反1畝、微害32町4反、被害本数18,033本。被害は栽培栗、山林栗をとわず、5~7月にかけて葉が食害さる。(都 10.19)

○ キオビエダシヤク

鹿児島 川辺郡勝目村の20~50年生のイヌマキに発生を10月1日発見、被害面積5町4反、被害木は殆んど葉を喰い盡されて、冬枯れの状を呈している。(県・ロノ町安雄 11.4)

○ トビモンオオエダシヤク

東京 新島本村のツバキに発生。被害面積127町歩(激害89町歩、中害25町歩、微害13町歩)この被害は3~8月新芽、葉を喰害し、幼木は枯死し、樹は結実不能となる。(都 10.19)

○ シヤクガの類4種

東京 南多摩郡山井村片倉の広葉樹全般に発生被害面積5町歩、被害本数7万本、4~6月葉部が喰害された。(都 10.19)

○ マイマイガ

北海道 天塩国上川郡和寒町大字大成の10年生のカラマツの人工造林地に発生を6月10日発見、激害面積2町5反、被害本数4,500本。この被害は初め造林地の中央部に発生し、次いで順次周囲に拡大した。(道 10.15)

東京 北多摩郡一町のクリ、クヌギに発生を5月発見、被害面積10町歩、被害本数3,000本。(都 10.19)

○ クワノコキクイムシ

東京 三宅島島内の坪田、三宅、阿古の各村のクワの幹、枝の樹皮下を喰害枯死さす。被害面積75町5反、被害本数15,500本、被害材積11,500石、損害1,150万円に達する見込。本島の桑樹は銘木として、従来多額の収入を挙げているので、今後経済面に及ぼす影響が憂えられている。(都 10.19)

○ マツノキイロコキクイムシ

山口 防府市全域の15~70年生のアカマツに発生を9月13日発見。被害区域面積約10町歩。(防府市 10.11)

○ オオスジコガネ

北海道 胆振国勇払郡安平、厚真の両村の主として4~5年生のカラマツ、トドマツ、ドイツトウヒの幼令林に発生を7月15日発見、被害面積安平村55町歩、厚真村55町歩、被害本数安平村約4万本、厚真村約35,000本。山峡の風溜りに発生、次第に拡大の傾向にあり、成林途上にある林地の荒廃となり、計画造林遂行上重大なる障害を来している。(道 10.15)

○ ハラグロヒラタハバチ

北海道 石狩国樺戸郡浦臼村字於松内の20年生のドイツトウヒの人工造林地に発生を8月21日発見、激害面積3町歩、被害本数1,300本、東西の林縁が被害多く、被害木は赤褐色に見える。(道 10.15)

○ マツノキハバチ

東京 青梅市のアカマツの幼令林に発生、被害面積130町歩。(激害26町歩、中害90町歩、微害14町歩)被害本数156,000本。(都 10.19)

○ マツノクロホシハバチ

京都 相楽郡中和村の10~15年生アカマツに昨年発生、本年種名確認、被害面積5町歩。加佐郡岡田下村の30~60年生アカマツに発生を本年10月1日発見、被害面積2町歩。(府・安村重雄)

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

宮崎 小林市南西方大出水の15年生のアカマツに発生を10月17日発見。被害面積約1畝。アカマツのみに加害が認められ、隣接のクロマツには被害を認めない。(県・伊藤武夫 10.21)

獣 害

○ 野 鼠

岐阜 恵那郡下呂営林署管内加子母裏木曾東本谷国有林では10月下旬既に林令2年のスギ造林地に野鼠の被害が発見されたので、直に駆除に着手した。(名古屋局 10.28)

○ タイワンリス

東京 大島の泉津、岡田、元村、野増、荒木地の各村に於て、ツバキの幹及び果実、スギ、ミツキの幹を喰害す。被害面積500町歩、被害見込材積750,000本、これによつて立木の成長は阻害され椿油の生産も減少す。(都 10.19)

◇ 詳 報

スギの枝枯症状——秋田、山形

本症については、前号に林試秋田支場の佐藤技官の被害報告を既載したが、林試樹病第一研究室から次の詳報とお願いがある。

この菌による被害は秋田、山形の他東北地方、関東地方の各地でも認められ、スギの枝枯症状の原因として注目すべきものと思われる。病徴はホモプシス菌による枝枯病のそれとよく似てをり、褐色に変色した患部に多数形成される子実体は共に黒色小粒点として認められるが、ホモプシス菌の場合柄子殻が表皮下に埋没し、成熟するにつれ表皮を押し上げ僅かに頭部を露出するに反し、この菌の場合は黒色の子座様組織が表皮を破り露出して形成されるので精しく調べると肉眼的にも識別容易である。又多湿の条件下では、ホモプシス



菌の場合柄子殻の頭部から微黄色の卷鬚状に胞子の噴出が見られるが、この菌の場合そのような現象は起らない。

尙この被害については精しい調査

をする必要があると思われるので、類似の被害を見付けた場合御手数でも標本の送附と被害状況を御知らせ願いたい。(林試樹病第一研)

オオキンカメムシ——島根

油桐実の全国生産量の過半を占めている島根県において、日本種油桐に甚大な被害を与えているオオキンカメムシは元來明治12年に島根県八束郡熊野村に発生したのがそそのの初まりで、爾來數回に亘つて発生を見たのであるが、村民はその都度トリモチ等で捕殺を行つて来たのである。

其後昭和24年再び猛威を振うに至り油桐栽培面積1,173町の中約65%が被害をうけ、昨年の如きは油桐実平年収穫量の約40%減を示し関係被害地区農民の生活にも一大脅威を及ぼす程の重大問題となつて来た。

この害虫は年一回の世代を繰返えし、成虫体のまま越冬したものが7月中旬頃に油桐の下葉の裏に一葉当たり約130~190個の卵を長方形に産みつけ産卵当初は薄紫色であるが日が経つにつれて次第に赤味を増し、四日位で体長3mm程度の幼虫に孵化する。この幼虫は1令より5令までの経過をたどり9月初旬に10mm~12.5mmの体長を持つ半翅目カメムシ科に属する成虫となる。この成虫は落葉期迄樹上におり落葉と共に地上に落下して主として北面の寒暖の変化の少ない落葉の下などで越冬するものと思われる。尙幼虫は1令~3令初期の間には常に葉の裏にて集団生活をなし、3令末期頃からは特に好天氣の折は油桐実に移動して、果実に口吻をさし込んで胚乳を吸収する。虫害はこの時期が最も激甚であり、果実の胚珠は空洞となり、油桐実の収穫は皆無となる。

これが駆除方法としては従來は発生が比較的局限されていた關係上幼虫、成虫の捕殺、卵葉の採取焼却等極めて原始的なやり方で終始して来たのであるが、到底その効果を期待することが出来ず關係農民は挙げてその対策に苦慮して来たのであるが、島根県は本年度より薬剤による駆除を行うこととし、BHC 71%の粉剤を動力撒粉器を使用し、晴天無風日の早晚時氣流の上昇をねらつて撒布した。撒布量は1町歩当り30kgとし500町に對し15屯の撒布を終つたがその効果は目下調査中である。(県 治山課・宇津)

マツキボソウムシ——群馬

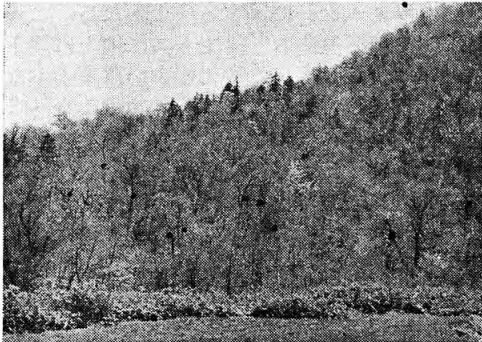
群馬県群馬郡金島村の民有林で、3年生のアカマツを5月中旬新植したところ、7月初旬に至つて植栽苗木が全枯となつた。被害面積5町歩。この被害を調べたところ、本虫の幼虫が苗木の根元樹皮下を穿孔、辺材部に浅く蛹室を造営していた。被害苗木の約2,000本は恢復の見込みがないので、掘取つて焼却した。本虫は苗木の養成中に寄生したのか、或は新植後に寄生したのか問題である。本虫は本県内では、4月中に殆んど産卵するし、且つその發育日数等から考えても、植付前に寄生したものと考えられるから、苗木を購入する際は注意を要する。(前橋局・加迎)

ニレのキクイムシ——北海道

ハルニレ(あかだも)は北海道で普通に見られる広葉樹の一つで、肥沃な洪積土平原や湿潤な溪谷に生じ、径1mm、樹高30mに達するものも珍しくない。

札幌営林局管内の蓄積380万石、全道の蓄積は1,800万石と言われる。(林業解説シリーズ、北海道の樹種別蓄積による)ニレの主な用途は挽物、曲物、家具、薪炭であるが、利用上あまり重視されていない。

芦別営林署野花南経営区の一部に於いては、近年ニレの枯損甚しく、野花南担当区主任岩下技官は前年度売払った枯損木の内、ニレの占める率が高いことに注目して、30ヶ林班について踏査したところ、860本、2,750石の被害木を発見した。その区域面積345陌。被害木の樹齡は30~100年生でニレとしては壮令木に属するものである。この被害の原因を調査した結果、キクイムシの加害であることが判明した。



芦別署 野花南経営区 103 林班
前面がハルニレの被害木 (5月10日撮影)

5月上旬、筆者が現地調査を行つた結果、二種類のキクイムシによるものであることを知つた。この被害は集団的に発生して、その被害状況は枝先の細い部分から加害され、樹皮が剥脱して開芽前でも樹梢が白く見えるので識別できる。

二種のキクイムシの内、小さい方はエゾマツキクイ位の大きさで、5月上旬成虫と幼虫がいた。主として枝や幹の細い部分を加害するらしく、15cm程度の経級の部分にもいた。林試札幌支場の井上博士によれば *Hylesinus laetus* Nijima で和名はまだ定らぬ種類だということである。

他の一種は、通常衰弱したニレの幹や皮付丸太に在るニレノキクイで、ヤツバキクイより稍大型である。これは主に樹幹部を穿入加害して、太い単縦孔の母孔と放射状子孔を作る。

現在、殆んどのニレが加害されているように見られる箇所もあつた。

6月上旬、恵庭営林署管内からも漁経営区の森林鉄道沿線のニレに被害が発生し、被害本数83本、被害材積1,107石、その他被害木と思われる

もの160本、材積2,000石ありと報告があつた。

9月上旬、北見方面へ旅行した際、上川営林署及び網走営林署管内で、同様なニレの被害木があるのを車中から見た。この被害は管内各地或は全道各地にあるのではないかと想像されるが、特に芦別署管内が最も甚しい。

札幌局計画課の佐藤技官によると、野花南経営区は全般的に多く、前記の野花南担当区部内の外落辺、滝里両担当区部内にも、被害木が存在するという。

また、芦別署の調査によると、隣接する幌内経営区にも集団的に被害が発見されているので、被害材積は前記の三倍を上廻るものと思われる。

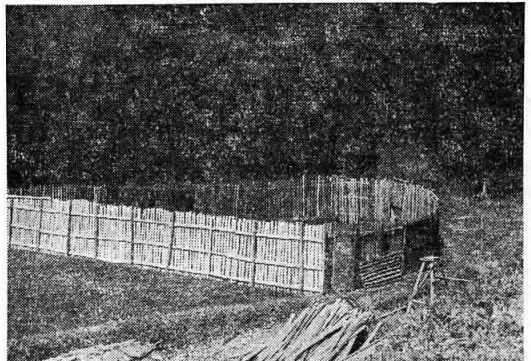
被害は数年前から発生し、現在も進行中で、放置すれば益々蔓延するものと思う。

防除対策としては、被害木を早期に伐倒、剥皮搬出し、被害枝條は水浸、焼却を行うべく計画中。(札幌局・竹越)

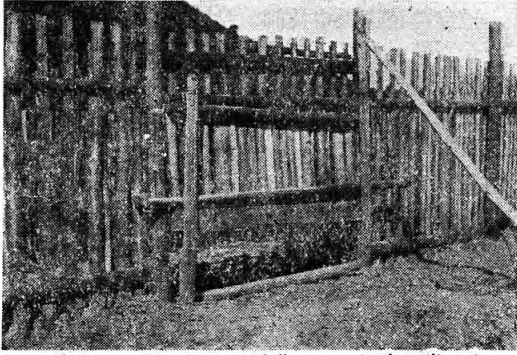
猪柵について

話は一寸旧聞となつたが、「熊本の林業」の第67号(10月1日附)に、『一柵に猪18頭、全国的捕獲レコード』という見出しで、県下八代郡上松求麻村で、9月25日一挙に猪18頭を捕え、「目方が132貫、金額にして65万円に上り、かつて岐阜県が作つた日本最高記録9頭を倍も引きはなした。全くうその様な大量捕獲で村の人々は何れも面を輝かして喜びにあふれ早速料理、時ならぬお祭りさわぎであつた。」という様な記事が出ていたので、御覧になつた方も多しと思います。

今まで林業方面では、猪害は殆んど問題にならなかつた。ところが近年、林業経営が多角化し、集約化するにつれて、既報の山口県豊浦郡栗野村の竹林の被害の様な被害も現われ出しました。又例え直接林産物の被害が、それ程大でないにしても、猪の棲息場が林野であり、狩猟事務が都道府県林務部課の所管であれば、猪害防除も疎には出来ないと思います。それかあらぬか、この猪柵とはどんなものかとの問合せがあるので、写真をお目にかけます。(防除室)



猪の出没する山間部に設けた猪柵



猪欄の一隅に設けた誘導口と、欄内に猪が入ると間髪を入れず口が閉る仕掛けの扉。

解 説

天 敵

森林害虫の制圧に天敵が重要な役を演ずることはよく知られているところである。天敵の活躍によつて害虫の大発生を未然に防止することもあろうし、又さしもの大発生も急激に終焉することもあつて、人力による防除などは到底その足許にも及ばない場合が少なくない。害虫の発生状況を調査する際には天敵に関心をもつて常にその行動に注意する必要がある。天敵の増殖状況によつては防除対策に変更を加えることが起り得るからである。天敵の調査は現場にて観察すると共に、特に寄生蜂や寄生蠅は害虫を飼育する必要がある。1種の害虫にも多くの種類の天敵があり、調査の時期や場所が異ると天敵の種類が異なるから、広汎な調査が望ましい。寄生蜂の中には第一次寄生蜂などのような真の天敵を襲う第二次寄生蜂も羽化するから、飼育するときは沢山の材料を用い、注意深くやらないと、時に第二次寄生蜂を真の天敵と間違えることがある。同じような寄生蜂の繭から異つた種類が羽化するような場合には蜂そのものを調べる以外に繭の脱出孔などを注意することである。脱出孔が繭の端の方にあつて、かみそりで切つたような切口をなし、その先端に円いふたのあるのと、脱出孔が必ずしも先端にあるとは限らず円いふたもなく、又脱出孔が不規則な形をなしているようなものがある。この場合前者からは第一次寄生蜂、後者からは第二次寄生蜂が羽化したものと判定して大体誤りない。寄生蜂や寄生蠅は種類が多く、その同定は専門家をわずらわさなければ困難な場合が多い。もし専門家に同定を乞うときは同定を容易にし、且つ正確を期するためなるべく沢山の材料を送ることが望ましい。

(北大・渡辺千尙)

質 疑 応 答

スギ針葉赤変病

【問】 山梨県西八代郡栄村下佐野、西ヶ谷の村有林(水源林造成地)の4年生のスギの葉先が全体に赤く枯れ、一見霜の害とも思われますが、当地方には霜は未だみられません。又被害は葉のみで赤枯の病徴もみられません。被害面積1町歩。

(西八代地事・高野文夫 11.8)

【答】 標本を見ないのでつくりした事は申上げられませんが、スギ針葉の赤変病と呼ばれるものではないかと思われまゝ。スギの針葉が晩秋から初春にかけて橙赤色乃至紫赤色に変色する現象は普通によく見られますが、この被害の場合はより赤色の濃い美麗な色を呈し、又前者の場合と異り四月以降になつても緑色に恢復することなく、特に甚しい場合を除いては枯死することはありませんが、著しく成長を阻害されるのが特徴です。尙この被害の原因については未だ明らかにされていませんが、菌類の寄生によるものではなく所謂非寄生性病害であつて、土壤中の或る種の肥料成分の欠乏によるものではないかと考えられます。又この被害は堆肥の少い苗畑で多く発生する傾向がありますが、このような場合屢々堆肥を充分に施すと被害が著しく減少するようです。

(林試第一樹病研)

蜜 蜂

【問】 イタチハギ、アカシヤを二ケ年にわたり植栽したので副業の養蜂をしたいと思ひます。ミツバチの種類、販売所、価格、文献、又ハチが逃避することが往々あるといわれますがその理由等承りたい。(香川県香川郡安原村・黒川藤五郎)

【答】 種類 東洋種と西洋種とあるが、わが国養蜂家が飼つている多くのものは、西洋種中の、イタリアン種系雑種が多いので、結局この種の雑種のものしか得られません。

販売所 東京都台東区上野桜木町5、日本養蜂協会にお問合せ下さい。

価格 一群(5枚巢礎入り)大体5,000円位。

文献 井上円治氏著、家庭養蜂、定価70円。発行所 千代田区神田錦町1の5誠文堂新光社、その他ありますが、これが一番わかりやすいと思ひます。

蜂の逃避について これは春先、女王蜂の産卵期に入るに及んで、群が強群となるため、その絶頂点に達すれば、新女王が産することによつて母女王がその巢から離れる現象で、所謂分蜂作用のことです。

(畜産局生産課)

雑	録
---	---

◇ 昭和 27 年度に於ける病虫害発生状況と防除対策報告会

去る 9 月 18 日 昭和 27 年度の保護専門技術普及員協議会開催に際して、第三日目、自然教育園に於いて「各都道府県に発生した病虫害の加害状況と、これが防除対策につき」調査研究の成果、防除指導状況の報告会が催されたことは既報したが当日の報告者氏名と演題は次の通りである。

北海道	阿部 豊	「道内に於ける病害発生状況と防除対策」
岩 手	神 倉松	「母子信幸「クルミの芯喰虫について」
宮 城	本宮治夫	「病虫害発生状況と防除対策」
山 形	川田庄一	「カタビロトゲトゲの生態」
福 島	大友春美	「病虫害発生状況と防除対策」
群 馬	茂原武雄	「病虫害発生状況と防除対策」
埼 玉	熊井正善	「スギの黒粒枝枯病について」
東 京	江幡三郎	「病虫害発生状況と防除対策」
神奈川	加藤銚治	「コガネムシ類幼虫の薬剤防除試験について」
富 山	宮森喜平	「病虫害発生状況と防除対策」
石 川	安達滝雄	「マイマイガの薬剤撒布について」
長 野	荒井久利	「浅間山麓に発生したマツノクロホシハバチの防除について」
愛 知	伊藤戒三	「ヒノキの枝枯病について」
同	同	「ホリドールによるクリタマバチ防除の一例」
三 重	林 一	「病虫害発生状況について」
兵 庫	松本孝介	「スギハムシについて」 (スライド使用)
山 口	笠井定雄	「海岸砂地造林地に於ける根切虫(コガネムシ)駆除試験」
同	同	「クリタマバチの虫糞採取後に於ける羽化並に脱出状況について」
福 岡	加来俊則	「根切虫駆除試験の中間的な結果について」
熊 本	宮脇幸次	「笹枯殺試験について」
宮 崎	伊藤武夫	「病虫害発生状況について」 (防除室)

◇ 野鼠駆除指導者の講習会

モノフルオール醋酸ナトリウム取扱基準令の改正に伴い、本製剤を使用して野鼠駆除を実施する場合の指導者の講習会が札幌市(10月31日)長野県西筑摩郡王滝村(10月27日)、岐阜県益田郡下呂町(10月29日)で行われた。

札幌市では北海道五宮林局、長野県では長野営林局、岐阜県では名古屋営林局等の局署員を対照として行われ、受講者は札幌市では 14 名、王滝村では 48 名、下呂町では 44 名参加した。

講師は札幌会場では北大犬飼教授、林試上田技

官、道庁薬務課浜中技師、林野庁中村技官が担当し、長野岐阜両県下では農薬研究所長三坂博士、林野庁大沼技官と衛生関係は王滝村は福島療養所原所長並びに大木氏、下呂町では岐阜県薬務課加藤技師が担当した。

講習課題は林野におけるモノフルオール醋酸ナトリウム製剤による野ねずみ駆除実施要領の五(前号参照)であり、以上三開催地は何れも本年度野鼠の大発生を予想されているので受講者の熱意は著しく極めて盛会であつた。

なお北海道庁では 10 月 20 日から 25 日まで全道を 3 班に分けて 10ヶ所で講習会を開催した。この講習会には各営林局署員、支庁並びに市町村吏員が受講した。(防除室)

◇ 森林保護資料の展示——京都、新潟

戦後各地で林業、林産に関する展示会、展覧会が盛んに催され、実物や模型を陳列して、視覚や聴覚を通じて、世人の理解に努めています。

陳列されるものは色々のものがありますが、近年、森林保護に関する展示品が、段々と殖えて来たことは、それだけ森林衛生に関する観念を向上させるもので、真に慶ばしい傾向であり、準備に精進された方々の努力は感謝に耐えません。

最近催された京都府主催の「京都府農山漁村振興展示会」(会期 11 月 8~10 日の三日間)に於いても、松喰虫については松林、クリタマバチについては広葉樹の山を作り、中に被害木、害虫の各態の標本を配し、又中学生製作の巣箱を架ける等、極めて理解し易い展示があつた。その他各種の森林害虫の標本(松喰虫、杉喰虫、その他最近各地に大発生した問題の各種の害虫)や苗害害虫、或は天敵昆虫、被害樹木標本が陳列された。又図表は数字の羅列でなく、巧みな絵で、誰にも理解されやすいように解説した 10 余枚の画も陳列された。場内では色々の質問が出たが、特にクリタマバチについては、多数の質問があつた。会期 3 日間、連日多数の来会者があり、盛会であつた。

新潟県立加茂農林高等学校は、本年創立 50 周年の記念祝典を催すに際して、11 月 9 日~11 日まで展覧会を催した。同校は先年の火災で標本類を焼失されたので、森林害虫標本類の借用を林野庁に依頼して来られたので、防除室所蔵の写真、図表等を出品した。森林保護担当職員、学生諸君の努力で、極めて有意義な展示がなされて、連日多数来場の人々に多大の感銘を与えた。(防除室)